



JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒162-0842
東京都新宿区市谷砂土原町 1-2-34
KSKビル3F
編集：JAAGA事務局
印刷：アロー印刷株式会社

祝

航空自衛隊創設60周年

The 60th Anniversary of Foundation of JASDF



平成 26 年 5 月 25 日(日)、気温が 30 度近くまで上がる中、埼玉県狭山市にある空自入間基地において「航空自衛隊創設 60 周年記念式典」が行われた。式典は、航空幕僚長感謝状贈呈式、記念式典、祝賀レセプションの 3 部構成となっていた。

航空幕僚長感謝状贈呈式では、空自に貢献された 35 名(個人 18 名、17 団体)の方々に感謝状と記念品が贈呈された。

記念式典は、小野寺五典防衛大臣をはじめ衆参国会議員、埼玉県知事、自治体首長、県議会議員、自衛隊関係者、米軍関係者、各国の駐在武官、歴代航空幕僚長、空自 OB、各自衛隊協力団体など招待者約 300 名が臨席する中、全国 73 箇所にある空自の全ての基地及び分屯基地から部隊等の代表隊員約 400 名が参列し、盛大に執り行われた。

国家斉唱、殉職者に対する黙禱の後、参列隊員を前に、航空幕僚長齊藤治和空将が「常に国民の期待と信頼に確実に応え得る精強な存在である事を追求」「良き伝統をしっかりと継承しつつ、より安全で健全、かつ明朗闊達な空の防人集団として肅々と任務遂行や訓練に邁進し、平和な空を次世代へと繋げていくことが使命」(要旨)と式辞を述べ、小野寺防衛大臣は「60 年にもおよぶ弛まぬ努力により、防衛省・自衛隊は国内外から高い評価を得て大多数の国民の皆様から信頼を集める組織となっている。これまでの成果を生かしつつ、今一度航空自衛隊に課せられた使命を自覚するとともに、今後とも国民の信頼と期待に応えられるよう、一層任務に

邁進することを切に望む」(要旨)と訓示した。その後、第 5 空軍司令官兼在日米軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella と航空自衛隊退職者団体つばさ会遠竹郁夫会長の祝辞、来賓の紹介、祝電の披露と式典は進められた。

式典後に行われた祝賀レセプションは、メインテーブル以外の各テーブルに全国各地の基地、分屯基地の名前が付けられ、その基地、分屯基地の隊員を配置するという工夫がこらされ、航空自衛隊創設 60 周年記念のロゴマークや記念曲の考案者の紹介や、航空中央音楽隊による記念曲「蒼空」と「風薫る」の生演奏、入間修武太鼓による記念曲「蒼き空」の披露等が華を添え、大盛況のうちに幕を閉じた。

なお、今年、全国各基地で開催された航空祭では、航空自衛隊創設 60 周年の記念塗装をした航空機が披露されている。

(若林理事記)



Gen. Harukazu Saitoh, Chief of Staff, Air Staff Office, delivers Instruction on the occasion of ceremony of the 60th anniversary of foundation of JASDF on May 25th



Presentation ceremony of testimonial by Gen. Saitoh C.O.S. ASO



Instruction by Mr. Itsunori Onodera, Minister of Defense



The commemorative emblem for JASDF 60th Foundation Anniversary



Congratulatory address by Lt. Gen. Angelella, Commander of 5th Air Force



F-15 decorated in commemorative painting



T-4 decorated in commemorative painting (Air Festival in Hamamatsu AB 2014)

レッド・フラッグ・アラスカ演習参加隊員を激励 JAAGA boosts the morale of JASDF participants in RED FLAG-Alaska

6月4日(水)午前、森下、長島、早坂理事が航空支援集団司令官半澤隆彦空将を、同日午後、野田副理事長、長島、山本理事が航空総隊司令官中島邦祐空将を訪れ、航空総隊及び航空支援集団から米空軍演習(レッド・フラッグ・アラスカ)に参加する隊員に対するJAAGAからの激励品をそれぞれ手渡し、訓練の成功を祈念した。

両司令官からは、「御支援に感謝します。本日、編成完結式が行われ、明日本隊が、来週月曜日にはF-15が発射することになっています。JAAGAからの御支援については全隊員に紹介させて頂くとともに、訓練の成功に役立てさせて頂きます」との感謝の意が表せられた。

今年度は、6月2日(月)から7月3日(木)の間(レッド・フラッグ・アラスカ演習期間は、6月17日(火)から6月28日(土))、人員約310名及びF-15×6機、E-767×1機、C-130H×3機、KC-767×2機が、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ・リチャードソン米軍統合基地並びに同周辺空域等において、防空戦闘訓練、空中給油訓練及び戦術空輸訓練を実施して、部隊の戦術技量及び日米共同対処能力の向上を図った。

訓練期間中は、常に航空機の高可動率を維持し、また、米軍の各級指揮官からは、空自隊員の訓練に対する姿勢は『尊敬に値する』との評価を受けたとのことである。



JAAGA members call on Lt. Gen. Nakashima, Commander of Air Defense Command, to hand their contribution on Jun. 4th



JAAGA members call on Lt. Gen. Hanzawa, Commander of Air Support Command, to hand their contribution on Jun. 4th

なお、F-15が本邦、アラスカ間を移動する際には、米空軍空中給油機による空中給油を受けた。

(早坂、山本理事記)



Warriors of JASDF and USAF who participate in Red Flag Alaska take photo in Eielson AFB on Jun. 26th

Exercise situation in RFA



Col. Oshima (left), Commander of expeditionary force to RFA calls on Col. Wineclar, Commander, Eielson AFB



スペシャル・オリンピックを支援 JAAGA supports Special Olympics in Yokota, Misawa and Kadena AFB

古代ローマで剣闘士が闘技場に入る時に口にしていた「Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt. (わたくしは、精一杯力を出して勝利をめざします。たとえ勝てなくても、がんばる勇気を与えてください)」という言葉を用いたアスリートの宣誓とともに開始されるスペシャル・オリンピックは、1962年6月にJohn. F. Kennedy 元米国大統領の妹 Eunice Kennedy Shriverさんが自宅の庭を開放して35名の知的発達障害のある人たちを招いてディ・キャンプを行なったのが始まりとされ、約170万人の知的発達障害のある人と50万人のボランティアが、150を超える国と地域で参加している活動である。

JAAGAは毎年、米空軍の横田、嘉手納及び三沢基地で開催されている活動に、ささやかではあるが支援を行っている。

【横田基地】

5月31日(土)、米軍横田基地主催の関東地区スペシャル・オリンピックが好天の下、横田基地で盛大に開催された。

今年で35回目を迎える本大会は、米軍横田基地が主催し、地元周辺自治体及び陸・海・空自衛隊等のボランティア約500名が支援して毎年横田基地で開催されている。JAAGAからは小川副会長、阪東、高橋両理事が招待された。

国旗入場、入場行進、聖火点灯、両国国歌斉唱及び選手宣誓等のセレモニーが行われた後、主催者を代表して第374空輸航空団司令 Col. Mark R. Augustが挨拶し、Caroline Kennedy 米国駐日大使からのお祝いメッセージが紹介され、空自横田基地司令柏瀬静雄1等空佐及びJAAGA小川副会長に感謝状が手渡された。

(高橋理事記)



(↑) Activities of Special Olympics in Yokota AB
(←) Mr. Ogawa, Vice President of JAAGA, Col. Kashiwase with Col. August, Commander of 374th Air Lift Wing on May 31st

【三沢基地】

9月27日(土)米軍三沢基地で第28回スペシャル・オリンピックスが、基地近傍の施設から招待されたアスリート約80名と米軍三沢基地所属空軍、海軍のボランティア約200名が参加して開催された。

当日は天候にも恵まれ、アスリート入場、聖火点灯、日米両国国歌斉唱につづき各種競技が行われ、参加者一同、和気あいあいと楽しんでいた。JAAGAからは、丸山三沢支部長と山本三沢支部事務局長が参加し、米空軍基地司令 Col. Timothy J. Sundvall が不在のため大会会長を代行した第35戦闘航空団副司令 Col. Andrew P. Hansen に、JAAGAからの寄付を手交した。Hansen 副司令からは、JAAGAの活動に対して感謝の意が表された。

(丸山三沢支部長記)



(↑)Mr. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch, hands small donation to Col. Hansen, Vice Commander 35th FW

【嘉手納基地】

嘉手納基地におけるスペシャル・オリンピックスは、11月8日(土)に開催された。



Activities of Special Olympics in Misawa AB on Sept. 27th

SPORTEX' 14A 開催

SPORTEX'14A, a Japan-US friendship golf athletic meet, is held



Early bird wants “Victory” before fight on the grass. Players in SPORTEX'14A, JAAGA and USAF members at Tama Hills GC on Nov. 5th

11月5日(水)、SPORTEX' 14A が米軍多摩ヒルズ・ゴルフコースにおいて開催された。JAAGA からは小川副会長をはじめ正会員及び賛助会員の計 49 名、米軍からは多忙にも拘らず、第 5 空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella 以下 17 名が競技に参加し、また日米双方から計 5 名が各種支援を行った。

肌寒く薄暗い早朝から参加者が集まり始め、朝食の後、6時半から、「司令官のお陰で天気が良く、雨の無い記録が更新されました。日米友好の目的を踏まえて、今日はよろしくお祈りします」との挨拶を交えた渡邊理事の司会のもと開会式が行われた。

小川副会長からは「外薗会長及び全 JAAGA 会員に代わり、皆様のご参加を歓迎します。外薗会長は今、米国に出張しており、明日は JAAGA の名誉会員の一人である Lt. Gen. Burton Field の退役式にも参加を予定しております。さて、今日の良い天気をもたらしてくれた Angelella 司令官、そして本日のゲストの皆さんに感謝します(チョット寒いですが・・・)。もっとも私の場合、天気が良いと、スコアが悪い言い訳がなくなってしまって困るのですが。では皆さん、存分にゲームを楽しんでください。そして皆さん、ベスト・スコアで昼食に戻って来てください」との挨拶とスペシャル・オリンピックヘスの募金の呼びかけが行われた。

司令官からは「今日は良い天気で良かったです。平素から日米の連係の強化に貢献してくれている JAAGA の皆さんに感謝しています。今日は友好を深め、楽しく、そしてベスト・スコアを目指して頑張っていきましょう」との挨拶があった。ルール説明の後、なごやかな雰囲気の中、7時を期して一斉に競技が開始された。

薄曇りのやや涼しい絶好のコンディションに恵まれ、日米友好と会員相互の親善を醸しながら競技は進行的に。競技終了後、プレーの内容を話題にしつつ談笑、昼食となった。昼食後、成績の発表、表彰式が行われた。

グロス・スコアによる順位、ニアピン、ドラコン及び飛び賞が発表され、米側最優秀賞(JAAGA 会長賞)は Mr. Riehn Ronald に、日本側最優秀賞(第 5 空軍司令官賞)は田母神俊雄会員に、それぞれ贈られた。また、ニアピン賞等が各受賞者に贈られたのに続いて、米側支援者と多摩ヒルズ関係者に謝礼の品が贈られた。

閉会にあたり、Angelella 司令官からは関係スタッフへの感謝の言葉とともに「来春の空自の皆さんとの SPORTEX を楽しみにしています」という旨の挨拶があった。

最後に、小川副会長からは、優勝者への祝福と日米双方の支援要員へのお礼、さらに、クラブハウスのスタッフの皆さんへのお礼の言葉とともに、「皆さんは今朝、『今日は自分こそが勝者だ』と思っていたことでしょう。そしてゲームが終わった今、『次こそ自分が勝者になる』と思っておられると思います。大歓迎です。是非次の大会にも皆さんご出席ください。お待ちしております」との挨拶があった。

12時半過ぎ、JAAGA を介した米空軍と空自の絆を感じつつ、SPORTEX' 14A は終了し、参加者は賞品や良き思い出を胸に抱きながら多摩ヒルズを後にした。

(源会員記)



Memories of SPORTEX'14A

米軍人の「ねぶた2014」参加を支援 JAAGA supports participants from Misawa Air Force and Naval Base into Nebuta Festival

8月2日(土)、毎年恒例となった米軍三沢基地軍人の『青森ねぶた祭り』への参加を支援した。

参加者は、米空軍第35戦闘航空団医療群歯科部長 Col. Christopher Garza、米海軍三沢航空基地隊司令 Cap.(海軍大佐)Keith M. Henry、三沢基地米軍人の家族等、総勢31名で、山本三沢支部事務局長夫妻が支援した。

今年は、夕方からの祭り参加の前に、青森市にある青龍寺(昭和大仏)見学を企画した。

青龍寺では、昭和大仏が昭和59年に建立され、青銅座像としては日本一大きな大仏であること、その高さは21.35メートルと奈良や鎌倉の大仏をも凌ぐことを説明すると、大変興味を示していた。本堂での参拝や枯山水の庭園、五重塔の見学、鐘楼堂での鐘撞の体験は、予定時間を大幅に超えた。

その後、参加者は、ねぶた衣装に着替え、午後6時30分『青森ねぶた祭り』へ出陣し、約2時間、元気に「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声を掛けて祭りを楽しんだ。

興奮冷めやらぬ中、午後9時30分に青森市内を出発し、三沢への帰途に着いた。深夜0時10分に三沢基地に到着し、「来年も是非、祭りに参加したい」との参加者たちの感激した言葉の中、解散した。

当日は、摂氏32度と青森市としては大変暑い気温だったが、参加者から「青龍時の見学と日本の祭りを同時に楽しめ、日本文化を直接体験できた有意義な時間であった」との感謝の言葉を貰った。

(山本三沢支部事務局長記)



Sightseeing Seiryu-Ji temple (Syowa Buddha, a huge statue) in Aomori City



Participants in Nebuta costume take Commemoration Photo before departure to Aomori Nebuta Festival on Aug. 2nd

第35 戦闘航空団司令 Col. Stephen C. Williams 送別会 Farewell Party for Col. Stephen C. Williams, Commander of 35th FW

6月13日(金)18時30分～21時30分、第35戦闘航空団司令兼米空軍三沢基地司令 Col. Stephen C. Williams の送別会が、三沢基地トーホク・ボールルームにおいて三沢市長をはじめ三沢市関係者、在三沢米空軍、米海軍関係者、及び在三沢自衛隊関係者約200名が参加して盛大に行われた。JAAGAからは、丸山三沢支部長と山本同事務局長がともに夫婦で参加した。

当日は、梅雨空のあいにくの天気だったが、参加者全員スマートカジュアルの服装でにぎやかに執り行われた。

Col. Williams は Brigadier General に昇任し、コロラドスプリングスの米空軍士官学校にご栄転された。

(丸山三沢支部長記)



(↑) Col. & Mrs. Williams with Mr. & Mrs. Maruyama

(→) Brig. Gen. Williams (newly promoted) and Maj. Kazuto Ueda, Exchange Officer at Air Force Academy, Colorado Springs

第35戦闘航空団司令にCol. Timothy J. Sundvall着任 35th Fighting Wing welcomes Col. Timothy J. Sundvall as New Commander

6月24日(火)米空軍三沢基地格納庫949において、Col. Stephen C. Williams から Col. Timothy J. Sundvall への第35戦闘航空団司令交代式が第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella により執り行われた。

当日は梅雨の時期には珍しく晴天に恵まれ、三沢市関係者、北空司令官以下在三沢空自部隊長等が見守る中、米空軍、米海軍在三沢部隊が出席して執行された式は、厳粛な中にも日本語を勉強している Col. Williams の次女による日米国歌の斉唱が行われるなど、前団司令 Col. Williams の人柄を反映して和やかな雰囲気であった。

JAAGAからは丸山三沢支部長と山本同事務局長がともに夫婦で出席した。

(丸山三沢支部長記)



Col. Sundvall, New Commander of 35th FW with Mr. & Mrs. Maruyama

第374空輸航空団司令にCol. Douglas DeLaMater着任 374th Air-lift Wing welcomes Col. Douglas DeLaMater as New Commander



Change of Command, 374th Air Lift Wing
(left)Lt. Gen. Angelella, Commander of 5th Air Force, (center)Col. Douglas C. DeLaMater,
(right) Col. Mark R. August

6月26日(木)、米軍横田基地において第374空輸航空団司令交代式が行われた。

交代式は、国旗入場、日米両国歌独唱、牧師による神への祈り、第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella の挨拶等の後、指揮官旗が離任者の Col. Mark R. August から Angelella 司令官へ、そして新団司令の Col. Douglas C. DeLaMater に手渡され、南北戦争当時から続いている伝統的な指揮権委譲のセレモニーは無事終了した。

交代式の後、将校クラブで新団司令 Col. DeLaMater 夫妻主催のレセプションが催された。

交代式には、周辺自治体の市長をはじめ、協力団体

の長が招待され、空自からは航空総隊司令官中島邦祐空将夫妻、同司令部幕僚長國分雅宏空将補、空自横田基地司令柏瀬静雄1等空佐、入間基地司令田中幹士空将補等が参列した。JAGGAからは菊川副会長、新井、阪東、桃木及び高橋各渉外理事、そして石川会員が出席した。式典に先立ち、菊川副会長から前団司令 Col. August 夫妻に、在任中の JAAGA への温かい支援に対する感謝の言葉とお別れの挨拶があった。

(高橋理事記)



Mr. Kikukawa, Vice President of JAAGA, JAAGA members, with Col. Mark R. August and his family



Mr. Kikukawa, JAAGA members, Col. & Mrs. Kashiwase, with Col. Douglas C. DeLaMater and his family

太平洋空軍司令官に Gen. Lori J. Robinson 着任 Pacific Air Forces welcomes Gen. Lori J. Robinson as New Commander

10月16日(木)、太平洋空軍司令官の交代式が、ハワイのヒッカム空軍基地で、米空軍参謀長 Gen. Mark A. Welsh、太平洋軍司令官 Adm.(海軍大将) Samuel J. Locklear 出席のもと厳粛に行われた。

太平洋空軍司令官として多大な功績をあげた Gen. Herbert J. Carlisle は航空戦闘軍団(Air Combat Command)司令官へ栄転し、後任の太平洋空軍司令官には Gen. Lori J. Robinson が着任した。

Gen. Robinson は、兵器管制官出身で米空軍では二人目の女性の General である。前職は、航空戦闘軍団副司令官。太平洋空軍司令官としては初めてのノン・パイロット、初めての女性司令官であり、今後の活躍が期待される。JAAGA からは外菌会長夫妻が来賓として式典に参加した。

(外菌会長記)



(from left) Gen. Mark A. Welsh, C.O.S. USAF, Gen. Herbert J. Carlisle, Former Commander of Pacific Air Command and Gen. Lori J. Robinson, New Commander of it



(from right) Lt. Gen. & Mrs. Angelella, Adm. Samuel J. Locklear, Commander of Pacific Command, Gen. Lori J. Robinson, New Commander Pacific Air Command and Mr. & Mrs. Hokazono, President of JAAGA



Command Flag from Gen. Carlisle to Gen. Welsh



Mr. & Mrs. Hokazono and Gen. & Mrs. Welsh



Command Flag from Gen. Welsh to Gen. Robinson

横田基地エア・フォース・ボール2014

Air Force Ball 2014 in Yokota AB in celebration of 67th birthday of USAF

9月20日(土)、横田基地の太陽コミュニティセンターにおいて、米軍横田基地司令 Col. Douglas C. DeLaMater が主催する米空軍創立 67 周年を祝う Air Force Ball が開かれた。

国旗入場、日米両国歌独唱及び神への祈りのセレモニーと会は進行した。軍人は正装、女性は色とりどりのドレスで会場はとても華やかな雰囲気にも包まれていた。会場の正面脇にお皿とローソクそして一輪の赤いバラのテーブルが用意され、国家のために殉職した隊員に対する深い敬意を感じた。

自衛隊からは統合幕僚長岩崎茂空将、航空総隊司令官中島邦祐空将、同副司令官吉田浩介空将、同司令部幕僚長荒木正嗣空将補及び空自横田基地司令柏瀬静雄1等空佐等が招待された。JAAGA からは外薗会長、阪東、高橋各理事及び石川会員が出席した。美味しい食事と楽しい音楽、ダンスも加わり米空軍創立を祝う宴は夜遅くまで続いた。

(高橋理事記)



Air Force Ball in Yokota AB on Sept. 20th

JAAGA会員の横田基地研修 JAAGA members visit Yokota Air Base

9月25日(木)、JAAGA 会員 37名(正会員7名、賛助会員25名及び理事5名)が参加し横田基地研修が行われた。当日はやや曇り空の研修日和、参加会員一同、午前9時半に福生駅に集合完了、山本隆之氏(正会員)を団長、山本正敏氏(賛助会員)を副団長として団結式を行った後に、米軍車両にて横田基地に向かった。

到着後、研修団一行は第5空軍司令部を訪れ、第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella の出迎えを受けた。山本団長、山本副団長及び理事2名と Angelella 司令官との懇談では、山本団長から本研修の受け入れに対する感謝の意を伝えた。Angelella 司令官からは本研修を心から歓迎するとともに JAAGA の日頃の様々な活動や米空軍に対する支援に対し心から感謝する旨の発言があった。その後、研修団一行はコンファレンス・ルームにて第5空軍の概況説明を受けた。第5空軍の歴史、任務、編成等の説明の他、極東地域における日本の戦略的位置、日米同盟の意義、重要性等について説明があり、在日米空軍のプレゼンスの重要性を強調した意義深い内容であった。太平洋空軍においては、第13空軍が解組され、第5空軍の任務が一段と重要性を増したこと、日米両空軍の絆がより強固になったとの認識等が示された。

概況説明後、下士官クラブにおいて JAAGA 主催の昼食会が行われた。昼食会には米空軍から Angelella 司令官及び第374空輸航空団司令兼米軍横田基地司令 Col. Douglas C. DeLaMater、空自側から航空総隊司令官中島邦祐空将、同副司令官吉田浩介空将、同司令部幕僚長荒木正嗣空将補、航空戦術教導団司令平塚弘司空将補、作戦システム運用隊司令兼空自横田基地司令柏瀬静雄1等空佐、その他日米双方の主要指揮官・幕僚が参加し、本研修団会員と共に円テーブルに着きクラブ特製ランチに舌鼓を打ちつつ楽しい会話に花を咲かせた。

会食後の記念撮影に続き、第374空輸航空団の研修が行われた。同航空団の概況説明では、同航空団が太平洋空軍に所属し、西太平洋からアフリカ大陸沿岸東部に及ぶ広大な空域を担当していること、近年の世界の大災害の80%が当該担当地域内で発生しており多くの人道支援作戦で活動していることや、先の東日本大震災における仙台空港での復興支援活動をはじめとした「トモダチ作戦」の状況等についての説明



Mr. Yamamoto, leader of JAAGA Tour, visits Yokota AFB and calls on Lt. Gen. Salvatore A. Angelella, Commander of 5th Air Force



Luncheon Meeting at NCO Club hosted by JAAGA



Briefing at conference room of 374th ALW HQ

があった。また、基地内には軍人・家族、軍属等約12,000名が生活もしくは勤務しており、東京ドーム約155個分の広大な敷地と施設を維持管理している旨の説明があった。

その後、格納庫内のC-130輸送機の研修が行われた。当該機体が40年前に製造され今だに現役で活躍中との説明を受け会員の多くが驚いた様子で、操縦席や機体内部の説明に熱心に耳を傾けていた。なお、空自小牧基地の第1輸送航空隊との相互研修が活発に行われていることや、同航空団が開発したLCLA (low cost low altitude) 物資投下要領が米空軍内ではほぼ普及されつつある現状等の説明があった。

午後3時からは航空総隊司令部研修に移行。同司令部では玄関ホールでの記念撮影の後、同防衛部運用課長松浦明裕1等空佐による概況説明、司令部施設の研修が行われた。最後に中島司令官から我が国周辺において益々厳しさを増す中国及びロシア軍機の活動、更に北朝鮮の軍事動向などについて約30分に及ぶ熱気溢れる講話が行われ、研修団一行は時間を忘れ熱心に聴講した。

午後4時半には研修も無事終了し、解団式の後、米軍車両にて基地を離れた。

本研修においては、横田基地に航空総隊司令部が移転後、米軍と同居し、日米同盟の実が格段に向上したことを空自、米空軍双方が強く認識していることを肌で感じられ、会員一同本研修を十分に満喫することができた。最後に、本研修の受け入れに熱心に取り組んで頂いた横田基地の米空軍及び空自関係者各位に心から感謝したい。

(早坂理事記)



Photo session before C-130 USAF



Lt. Gen. Nakashima, Commander of Air Defense Command, talks about national security environment enthusiastically



JAAGA tour members together with USAF and JASDF Staff on Sept. 25th

米空軍士官学校交換留学生のホスト・ファミリーに JAAGA members become host families for U.S. Air Force Academy exchange students

9月10日(水)、横須賀にある防衛大学校において、ホスト・ファミリーに対する委嘱状の交付式が行われた。JAAGAとして毎年、米空軍士官学校からの留学生のホスト・ファミリー支援を行っており、今年度は、渡邊、桃木、石野(次)の各理事が、米空軍士官学校からの留学生3名のホスト・ファミリーとして支援する。今回は、桃木理事夫妻が、代表して参加した。

本年度は、米国から8名(空軍士官学校3名、陸軍士官学校1名、海軍兵学校3名、VMI(バージニア州立軍事学校)1名)、豪州及び仏国から各1名の計10名が、8月末から12月19日まで短期留学生として来校している。

当日は、委嘱状の交付式及び学校長との懇談が本館応接室で行われ、その後、記念撮影、留学生との懇親会食等が行われた。

学校長から、「近年東南アジアからの留学生が語学研修を含め、5年間の期間で防大に入校しており、現在も10か国から総勢100名を超える学生が勉学に訓練に励んでいる」と紹介があった。今回担当する留学生3名は、何度か来日経験があるとのことで、日本語が堪能である。

食事の後、留学生係長の古川3等陸佐の案内による学生の課業行進の見学や留学生の日本語講義の聴講に参加した。

(桃木理事記)

11月10日(月)、防大開校祭の代休日であるこの日、渡邊、桃木、石野の3理事は、留学生を都内に招いて浅草周辺観光を実施した。今回の目玉は、“スカイツリー”展望回廊(450m)へのチャレンジであった。ご存知のとおり“スカイツリー”からの眺望は、その日の天候に大きく左右されるので、事前に計画(チケット予約)するにはリスクがある。しかし、例年の案内スポットである「江戸東京博物館」が生憎休館であったため、急遽留学生の希望を尊重してこれを計画した次第である。結果、前日の芳しくない予報に反し、遠くに富士山の一部を確認できるほどの好天に恵まれ、大満足の“スカイツリー”チャレンジとなった。チケット購入列の最後尾からエレベーターに辿り着くまで1時間余りを要したが、留学生達との会話を楽しむ良い機会となった。



Mr. & Mrs. Momoki with 3 Cadets
(from left) Balys Gintautas, Tetsuo Toyama,
Spencer Rhoyon at NDA

後半は、この日偶々酉の市(一の酉)が開催されていたので、雷門、仲見世、浅草寺という代表スポットを割愛し、千束の鷲(おおとり)神社まで足を延ばした。ここでも境内入場まで30分弱の時間を要したが、酉の市の由来や縁起熊手の説明をしながら会話を楽しんだ。留学生達は参拝者の多さとその活気に圧倒されているようであった。神社からの帰り道、浅草の伝統工芸博物館に立ち寄り、「日本の匠」を垣間見ることもできた。

最後にビールで喉の渇きを癒し、焼肉食べ放題で空腹を満たし、名残惜しそうに地下鉄に乗り込む3名を見送り、今年の留学生都内研修は無事終了した。

(渡邊理事記)



(↑) On the 450m Observation
Deck of "Sky-Tree"
(→) In front of "Sky-Tree" with
host families



「つばさ会/JAAGA訪米団」AFA 総会参加等報告
 Report: TSUBASA-KAI and JAAGA participate in AFA general meeting in U.S.

今年度の「つばさ会/JAAGA 訪米団」は、9月7日、真珠湾・ヒッカム米軍統合基地からスタートした。本年度は、外薮健一朗会長を団長に、永岩顧問、堀顧問、森下、渡邊、小野田、石野(次)各理事の計7名のメンバーにより、米太平洋空軍司令部(ハワイ州ホノルル)、第9偵察航空団(カリフォルニア州ビール空軍基地)、統合宇宙コマンド/第14空軍(同州バンデンバーグ空軍基地)を訪問し、ワシントンDCにおいてJAAGA名誉会員との交流行事を行うとともに、統合参謀本部、空軍参謀本部、国際戦略研究所(CSIS)を訪問し、空軍協会主催の航空宇宙コンファレンスに参加した。それぞれの訪問先において大変有意義な意見交換を行い、相互の友好と信頼の絆を深め、また米空軍の現状と課題、今後の動向について知見を得ることができた。

昨年9月の訪問以来、10月には日米2+2合意、12月にNSCの設置、安全保障戦略、防衛計画の大綱、中期防の策定、本年4月には新たな装備移転3原則の閣議決定、7月には集団的自衛権の行使容認などを含む安全保障法制の整備に関する閣議決定など、日本の防衛政策及び日米関係をめぐる積年の課題は大きな一歩を踏み出した。とは言うものの2+2

実施の概要

月日	訪問先等	実施内容・参加者等
9月7日(日)		移動(成田→ホノルル)
9月8日(月)	太平洋空軍司令部	・コマンドブリーフィング及び意見交換
	ハワイ総領事館	・総領事表敬
9月9日(火)		移動(ホノルル→サンフランシスコ→サクラメント)
9月10日(水)	Beale AFB	・コマンドブリーフィング ・基地内見学(RQ-4, U-2, MC-12, 関連施設)
9月11日(木)		移動(サクラメント→ロサンゼルス→サンタマリア)
9月12日(金)	Vandenberg AFB	・(AM) コマンドブリーフィング ・(PM) ロケット発射場見学
9月13日(土)		移動(ロサンゼルス→ワシントン)
9月14日(日)	Eberhart邸 Army Navy Club	名誉会員等との懇親行事 (名誉会員) Davis大将, Hawley大将夫妻、Eberhart大将夫妻, Hester大将夫妻、Wright中將夫妻, Waskow中將, Rice大将(その他) Schwartz元空軍参謀長, Fraser大将, Carlisle太平洋空軍司令官, Angelella司令官 佐々江駐米大使 ※鈴木昭雄元会長
9月15日(月)	National Harbor Convention Center	AFA Conference聴講 ・空軍長官講話 ・NATOでのAir Powerの役割 ・F-35 Update ・21th Century Warfare
9月16日(火)	Pentagon	(AM)・A8 Lt Gen Holmes 北東アジア地域情勢 ・A3/5 Lt Gen Field 対中国、BMD等 ・A2 Brig Gen Rauch 中国関与情報ブリーフィング ・J5 RADM Buck 統合関連シナリオオペラティビティ等
	National Harbor Convention Center	(PM) AFA Conference聴講 ・空軍参謀長講話 ・ACC司令官講話 ・太平洋空軍司令官講話 (AFA会長表敬及び意見交換)
9月17日(水)	National Harbor Convention Center	AFA Conference聴講 ・空軍次官講話 ・Four-Star Forum
9月18日(木)		移動(ワシントン→成田)19日午後帰国





Mr. Hokazono, President, and members of JAAGA with Brig. Gen. Steven L. Basham, Deputy Director, Operations, Plans and Policy, PACAF at Joint Base Pearl Harbor - Hickam



JAAGA party with Mr. & Mrs. Shigeeda, Consul General in Hawaii at his official residence

合意内容に見られるとおり、今後我が国がなすべき事項は数多く、これから相当な時間とエネルギーを要することは言うまでもない。その一方で、世界は急速に、そして大きく変化しつつあり、アジア太平洋地域のパワーバランスの維持と不安定化の防止には細心の注意が必要である。訪米団は、軍事予算の縮減に伴う米空軍の対応、特に7月に米空軍が発表したいわゆる「30年戦略」の具体的な姿と今後の方向性、日米防衛協力深化に際しての空軍種間の具体的な課題や協力のあり方、厳しさを増す東シナ海や南シナ海に関する状況認識と対応等を主要なテーマとして意見交換に臨んだ。太平洋空軍が直面する各種の挑戦には、自然災害、テロ・組織犯罪、麻薬・人身売買、領土・資源紛争、興隆するパワー、接近拒否／地域拒否(A2 / AD)などのほかに広範な担当区域や地域の歴史における各国

の交錯の克服という課題があるという。同軍はこうした挑戦に対して、地域諸国の防衛能力構築、統合防空及びミサイル防衛(IAMD)、戦力投射能力、軽快柔軟な指揮統制、強い兵士の育成を重視している。太平洋空軍司令官カーライル大将(Gen. Herbert J. Carlisle)は10月に戦闘空軍(ACC)司令官に転出され、後任にはACC副司令官のローリー・ロビンソン中將(Lt. Gen. Lori J. Robinson)が大将(Gen.)に昇任し着任される(編集子注:10月16日に着任)。同中將は兵器管制官出身であり米空軍の女性では現補給コマンド(AFMC)司令官に続いて2人目の大将となる。

米空軍は、予算縮減のために高高度有人偵察機のU-2を退役させてその任務を無人機のグローバル・ホークに負わせることとしている。同機は世界をカバーする通信ネットワークによって世界各地で運用することが可能であり、米国内、欧州などのほか、アジアではグアム及び三沢基地が運用拠点となっている。同機の操縦は様々な機種の出身者だけでなく、直接無人機操縦課程を経て資格を得た者が3割ほど含まれているとのことであった。

KC-135のパイロットから無人機操縦教官に転じた大尉に、KC-135の部隊に戻りたくはないかと尋ねたところ、無人機分野は任務の重要性とともに将来性があり、大いにやりがいを感じているとのことだった。部隊整備を越える整備は製造会社が運用基地に拠点を置いて支援しており、重大な整備はビール基地で行っている。

退役が予定されているU-2の着陸を目前で見る機会を得た。U-2は着陸速度が180km/hほどで胴体下の主脚以外に翼下の脚を持たずグライダーのように着陸する。着陸訓練の際にはスポーツ仕様の一般車両



With Col. Douglas J. Lee, Commander, 9th Reconnaissance Wing, 25th Air Force at Beale AFB on Sept. 8th

がタクシーウェイに待機していて、U-2が滑走路に進入すると同時に一気に加速して滑走路に進入、U-2の背後を追跡しながら必要なアドバイスを与える。追跡する車の余席に座って200km/h近い速度でU-2を追う。筆者には車の加速と運転の荒さが恐ろしかった、元戦闘機パイロットの某訪米団員は「これが本当のモーボだなあ」と妙なところに感動していた。

ISR(情報、監視、偵察)から宇宙へと研修は進む。バンデンバーグ基地と言えば宇宙ロケットの発射や弾道ミサイル試験などで有名な米軍の宇宙戦力の拠点である。統合宇宙コマンド兼ねて第14空軍司令官は、元第5空軍副司令官のジョン・レイモンド中将(Lt. Gen. John Raymond)である。カリフォルニアのワイナリーのブドウ畑にしつらえたディナーやご自宅(官舎)



(↑) Pleasant Chat between Mr. Suzuki, Ex-C.O.S, JASDF and Mr. J. B. Davis (Lt. Gen. Ret.), Ex- 5th AF Commander

(↓) Cocktail Party at residence of Mr. Ralph E. Eberhart (Gen. Ret.) together with His Excellency Kenichi Sasae, the Japanese Ambassador to U.S.A. on Sept. 14th



With Lt. Gen. John Raymond and R. Adm. Brian B. Brown, Deputy Commander, Joint Functional Component Command For Space at Vandenberg AFB on Sept. 12th

での朝食をはじめ、殆どの時間を訪米団とともに過ごして頂いた。米国の宇宙に関する圧倒的な優位は、中国の技術的急追や打上げロケットのロシアへの依存など、競争が激しくなっており、宇宙空間には1,300基の衛星を含む20,000個以上の物体が存在して非常に込み合った状況になっているという。今後は更に超小型の衛星が多数軌道上に打ち上げられることが予想される。「これまで宇宙は常にスイッチ・オンの状態だったが、今後は突然スイッチ・オフに陥る可能性がある。」という司令官の警告が強く記憶に残った。宇宙における優位を維持するには同盟国との協力関係を密にして資源の有効活用を図る必要性があるとして、日本との協力強化に大きな期待を寄せていると語った。実際、衛星を保有及び運用する各国及び民間企業とは協定を結んで

観測データの相互利用等の協力関係を構築している。宇宙監視及び運用を司るオペレーション・センターでは、デブリとの衝突予測を3日前までに衛星の運用者に通知し、軌道変更などの評価も行っているとのことであった。このほか、太陽の活動などによる電磁環境に関する観測・分析も行っている。

ワシントンでは6月に着任したばかりの防衛駐在官小川康祐1等空佐と昨年もお世話になった廣田哲哉2等空佐に温かい出迎えて頂いた。一夜明けて快晴の日曜は朝からJAAGA名誉会員の皆さんとの嬉しい再会を果たし、夕刻のエバ



ハート元大将(Gen.(Ret.)Ralph E. Eberhart)邸でのカクテルパーティーには佐々江賢一郎駐米大使にもお出で頂いた。「航空自衛隊幹部と米空軍幹部が長期に亘り、かくも親密に交流を重ねていることに驚きとともに感謝の念を禁じえない。こうした交流が両国の信頼関係を益々緊密なものにすることを確信する」と大使からスピーチを頂いた。今年には航空自衛隊創設 60 周年であり、本交流の草分けである鈴木昭雄元空幕長にご訪米頂いた。鈴木元空幕長ご在任当時の第 5 空軍司令官デービス元中將(Lt. Gen.(Ret.)J. B. Davis)にもご出席頂いて華やかなディナーとなった。鈴木元空幕長からは「老兵はただ消え去るのみと言われるにもかかわらず、米空軍の皆様はただ一言御礼を申し上げるべく参上した。航空自衛隊が今日あるは米空軍のおかげであり、創設 60 周年記念式典において齊藤治和空幕長が言及したとおりである。それに応えてアンジェラ(Lt. Gen. Salvatore A. Angelella)第 5 空軍司令官から両国の絆について力強い言葉を頂いたことに感謝する。空自はまだまだ力不足だがサムライ魂をもって日々努力を重ねているので今後も益々のご支援、ご協力をお願いしたい。」と力強いメッセージが寄せられた。これに応えてデービス元第 5 空軍司令官は、「かつてマンズフィールド(Michael Joseph Mansfield)大使が日米関係は米国にとって最も重要な関係だと言ったが私も全くそのとおりだと思う。第 5 空軍司令官在任中に困難に直面した際に、二人で緊密に連携して対処したことが何度もあったが、鈴木空幕長はまさにサムライであると感じた。日米関係の強固さは、東日本大震災における「トモダチ作戦」にみられたとおりである。昨年末に日本が新たな安全保障戦略を策定して新たな一歩を踏み出したことを歓迎する。」とコメントされた。毎年恒例となったJAAGA名誉会員との交流は、様々な方の努力によって維持されているが、中でも多年にわたって積極的に中心的役割を果たしていただいているエバハート元大将(Gen.(Ret.)Ralph E. Eberhart)には心から御礼を申し上げる次第である。

ワシントンでは、統合参謀本部計画部長(J5)、空軍参謀本部情報副部長(A2)、運用計画部長(A3/A5)、戦略部長(A8)を表敬した。台湾、南シナ海、日中の領土・資源をめぐる係争の 3 点がアジアにおける米国の焦点であり、米国の軍事プレゼンスを維持するためには拠点となる日本、特に南西諸島が不可欠との共通認識が示された。リバランスの重要拠点は日本、韓国、アラスカ、ハワイであり、正面戦力の地域へのローテーション配備は予算が厳しい中であっても維持されるだろうとのことであった。また、弾道ミサイル等の脅威に対して



With R. Adm. Seans S. Buck, Director, Chief of Staff, Strategic Plans & Policy (J5)



With Lt. Gen. Burton M. Field, Deputy Chief of Staff for Operations, Plans & Requirements (A3/5)



With Lt. Gen. James M. Holmes, Deputy Chief of Staff for Strategic Plans & Requirements (A5/8)

At Pentagon on Sept. 16th

基地の復元力(Resiliency)に対する要求が高くなっており、日本には大きな期待を寄せているとの発言があった。多くの訪問先やコンファレンスで“Resiliency”という単語が多く聞かれたが、A2 / ADによって被害が避け得ないことを前提に、基地機能やネットワークなどのインフラについてハード、ソフト両面での復元力の整備が焦点となっている点が印象的だった。

航空宇宙コンファレンスはジェームス空軍長官(Ms. Deborah Lee James)の基調講演の他、ウエルシュ空軍参謀総長(Gen. Mark A. Welsh)による「空軍の現状と将来」、「戦闘クラウド」、「F-35の開発状況」、「戦闘空軍の現状と課題」、「太平洋空軍におけるイノベーション」等を聴講した。いずれの講演においても、世界情勢は今後大きく変化するであろうこと、予算の縮減への対応とともに米空軍は大きく変革する必要に迫られていること、その変革を支えるのは空軍に所属する個人であること等が強調されていた。空軍の中心的任務は、航空宇宙優勢、ISR、グローバルな機動、グローバルな打撃、指揮統制であり、次なるステップは、必須の3大プログラム(F-35、KC-46、次期長距離爆撃機)を維持し、核兵器の近代化計画を策定し、シミュレータをネットワーク化する等の効率化を進め、インフラを強化するとしている。空軍が担任する3つの分野(空、宇宙、サイバー)での競争は激しくなっており、サイバー分野では第24空軍によるNSA、サイバー・コマンド、地域軍の支援、サイバー分野に変革をもたらすイノベーション・センターの設立、サイバーの専門家養成が重点であり、ISR分野では専門部隊として第25空軍を設立、サイバーと融合したイノベーション・センター



With Mr. George K. Muellner, Chairman of the Board for the Air Force Association on AFA General Meeting at National Convention Center on Sept. 16th

を作り、ISR部隊を再構成するとしている。また、戦略的なパートナーシップの構築については、持続可能な訓練ローテーションの構築とともにレッドフラッグ演習を中心に据えていくとのことであった。カーライル(Gen. Herbert J. Carlisle)太平洋空軍司令官からはパートナーシップの代表例として、PACAF司令部で勤務する連絡官の谷川水流2等空佐(本年8月に転出)と能勢稔2等空佐の活躍が紹介され、二人のおかげで日本との相互協力が極めて密接に行われていると力強いメッセージが発せられた。また、PACAFが抱える第1の課題は、地域諸国の信頼をどのようにして勝ち取るか、第2の課題は戦力量、即ち戦力が小さくなれば圧倒的な優勢を失う恐れがあること、第3の課題は即応性の確保であり、第4は柔軟かつ軽快な指揮統制の実現であると述べた。中国による防空識別区設定に関して航行の自由の確保が今後一層重要な任務となること、日本の集団的自衛権の行使容認によって両国関係が一層進展するであろうことにも言及された。

最後に今回の訪問に際して事前ブリーフィング等を頂いた空幕の関係幕僚の皆様、事前の調整から現地での案内まで多大なご支援を頂いたPACAF司令部連絡官の竹岡功二1等空佐と能勢2佐、防衛駐在官の小川1佐と廣田2佐、そしてつばさ会及びJAAGA会員の皆様に厚く御礼を申し上げ筆を置くことにする。

(小野田理事記)



At residence of Col. Kosuke Ogawa, Air Attaché, Japan Embassy in D.C. and his family

2014横田基地日米友好祭が開催

Yokota Air Base opens doors for the 2014 Japanese-American Friendship Festival

9月6日(土)、7日(日)の2日間、2014米軍横田基地日米友好祭が2年ぶりに開催された。9月6日(土)1300からはレセプションが、基地内下士官クラブで行われた。

福生市長をはじめ多くの地元関係者が招待され、空自からは航空総隊司令官中島邦祐空将、同副司令官吉田浩介空将、入間基地司令山本祐一空将補、空自横田基地司令柏瀬静雄1等空佐等が招待された。JAAGAからは外薮会長、新井、阪東、桃木及び高橋各渉外理事と石川会員が出席した。

ホストの米軍横田基地司令 Col. Douglas C. DeLaMater から地元関係者等に平素の横田基地への友好や支援に対する感謝の挨拶があった。会場には第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelellaも出席する中、レセプションは、カジュアルな服装で終始和やかに行われた。

なお、航空機の展示会場には多数の市民が訪れ米空軍の人気の高さが伺われた。特に最近話題のオスプレイ機の周りは多くの観客で賑わっていた。

(高橋理事記)



At the Reception at the Enlisted Club



(↑) With Lt. Gen. Angelella, Col. & Mrs. DeLaMater, Commanders of JASDF and their Wives

(←) V-22(Osprey) coming out!!



Waskow名誉会員夫妻歓迎会を開催 Welcome Party for Lt. Gen.(Ret.) & Mrs. Waskow is held in Tokyo

7月17日(木)、来日中の元第5空軍司令官兼在日米軍司令官でJAAGA名誉会員であるLt. Gen. (Ret.) Thomas C. WaskowとSheila夫人を迎えて、グランドヒル市ケ谷においてJAAGA会員有志による歓迎会が開催され、旧交を温めた。

Waskow名誉会員御夫妻は、北海道丘珠空港創設25周年記念航空祭への招待を受け、7月15日から21日までの日程で来日した。前半の東京滞在中は、親交深い阪東理事の案内で横田基地を訪問して、懐かしい米軍基地内を散策するとともに航空総隊司令部の新施設内も初めて見学した。

17日の歓迎会は、竹河内捷次元統幕議長夫妻、遠竹郁夫元空幕長夫妻、小田邦博元総隊司令官夫妻を始めとして、会員等19名が参加し、和やかかつ賑やかに開催された。冒頭、織田副会長が歓迎の挨拶の中で、イラク支援のための自衛隊部隊派遣時に当時司令

官だったWaskow名誉会員から受けた助言と情報提供が、空自にとって非常に有益であった旨の謝辞が述べられた。Waskow名誉会員の挨拶では、司令官在勤当時のみならず、作戦部長時代の総隊防衛部との親密な関係に関するエピソード等懐かしい話題が披露された。

乾杯後は、Waskow名誉会員がグラス片手に参加者それぞれのところを回って、昔話や近況紹介等で盛り上がった。また、Sheila夫人の周りには、ご婦人たちの輪ができ、用意された料理に手を付けることを忘れるほど、話を弾ませていた。

あっという間にパーティーは終了時刻となり、最後に名残を惜しみつつ全員で何度も何度も記念写真に納まり、再会を誓いながら散会した。

(渡邊理事記)



Full of smiles around Lt. Gen. (Ret.) Thomas C. Waskow and his wife Sheila

Myers名誉会員夫妻歓迎会を開催

Welcome Party for Gen.(Ret.) & Mrs. Myers is held in Tokyo

7月30日(水)1800より、日米軍人ステーツマン・フォーラム(日本再生イニシアティブ主催)出席のため来日された Gen.(Ret.) Richard Bowman Myers 名誉会員御夫妻を GH 市ヶ谷「白樺の間」に迎え、JAAGA による歓迎会が実施された。

第15代米国統合参謀本部議長を務められた Myers 名誉会員は、1993年11月～1996年6月、第5空軍司令官兼在日米軍司令官として日米同盟の緊密化とその深化に貢献されており、JAAGA に対しては、在任間はもとより退役後も多大な御尽力を頂いている。Myers 名誉会員への感謝と敬意を表す趣旨で開催された本懇親会には、親交のあった JAAGA 会員を中心に多くの関係者が参集して旧交を温めた。

冒頭、外薗健一朗会長より「米国統合参謀本部議長及び日本の統合幕僚長を経験された安全保障に係る最高位の有識者が一同に会し議論された事は、日米両国にとって大変素晴らしい事です。また、このフォーラムのお蔭で、JAAGA も Myers 御夫妻を本宴にお招きする事が出来ました。本日は、多摩ヒルズで御夫妻共々 80 台のスコアーでラウンドされたとのこと。多摩ヒルズにおける JAAGA メンバーとの思い出もあらたに、本宴において楽しく旧交を温めていただければ幸いです」と挨拶がなされた。

Myers 名誉会員からは、「多摩ヒルズでプレイして、JAAGA の方々との心温まる一時を思い出しました。私が日本勤務をしていた頃の様々な思い出が胸に浮かび、懐かしさもひとしおです。あれから 20 数年が過ぎ、日米両国間の緊密度は更に深まっています。その進化の一端を支える JAAGA の皆様に敬意を表します」との挨拶がなされた。



Proposing a toast by Mr. Suzuki, the second President of JAAGA and Ex-C.O.S, JASDF



Gen.(Ret.) Richard Bowman Myers and his wife Mary Jo

壇上右側のスクリーンに、所用で歓迎の宴に参加出来なかった石塚勲第3代会長の写真と「直接『お帰りなさい』と言えない事をお許しください」と旧交を叙するメッセージが映し出され、各テーブルには石塚元会長よりプレゼントされた乾杯用のシャンパンが準備された。

鈴木昭雄第2代会長が「明るい笑顔、気さくな物腰で、現役時代も退役した後も日米ミタリー間のキーパーソンであり続けてきた『本物の中の本物』Gen. Myers 及び Mrs. Myers とのご縁が出来たことは喜ぶべきことであり、それに深く感謝しつつ！」と発声し、参集者一同杯を挙げた。

談笑の輪が Myers 名誉会員や Myers 夫人 Mary Jo さんの周りに出来、和やかな懇談の時が流れた。その和やかな雰囲気と全身にかもしつつ Myers 夫人が壇上にあがり「沖縄において二人の子供が生まれ、横田時代には交流を深めた日本の御婦人方に歌舞伎や生花等、日本文化のエレガントさを教えていただきました」と日本との係りを感慨深そうに回想した。途中から Myers 名誉会員も壇上の夫人に寄り添い「私達二人にとって日本、特に空自関係者の方々との様々な思い出は、後半生における大切な宝物です。横田でのミッションは私の軍歴において大変誇らしいものでした」と述べた。

次に、日本側からの思い出披露のスピーチが、杉山蕃元統幕議長、平岡裕司元空幕長、山口利勝元副会長、越智通隆元副会長から流暢な英語でなされた。

御夫妻の愛犬(名付けて“大将”)や多摩ヒルズにおけるミラクルショット等、ほのぼのとした話題から、日本在任間の「台湾海峡危機」「ガイドライン制定」「北朝鮮

ミサイル事案」「阪神淡路大震災対処」等における Gen. (Ret.) Myers の活動・功績の紹介に至るまで、その内容には日米両国間の絆を強めた数々のエピソードが含まれていた。これらのエピソードを受け、Myers 御夫妻を中心として、さらなる思い出の話題が会場を盛り上げた。

翌日もタイトなスケジュール(防衛大学校における講演等)が控えていると聞き及び、予定の時間を越えて

の歓迎会も終盤を迎えた。竹河内捷次第 5 代会長の「Myers 御夫妻の JAAGA に対する御厚情に感謝し、またお会いできる事を祈念して！」との納杯の言葉と共に、一同、拍手で御夫妻の退場を見送った。帰路の車中においても懇親の情冷めやらず、御夫妻共々、日米友好に想いをはせていたとは、エスコート石野次男理事の談である。

(杉山理事記)



Enjoying warmhearted reunion with Gen.(Ret.) & Mrs. Myers

名誉会員 Lt. Gen. Burton M. Field が退役 Solemn and "at home" Retirement of Lt. Gen. Burton M. Field

11月7日、前第5空軍司令官兼在日米軍司令官の Lt. Gen. Burton M. Field の退役式がワシントン DC のボーリング空軍基地で、第17代空軍参謀総長 Gen.(Ret.) John P. Jumper、第19代空軍参謀総長 Gen.(Ret.) Norton A. Schwartz 及び第20代空軍参謀総長 Gen. Mark Anthony Welsh III の臨席のもと厳粛に行われた。Lt. Gen. Field は、2010年10月から2012年7月まで第5空軍司令官兼在日米軍司令官を勤められた。2011年3月に発生した東日本大震災の際には「トモダチ作戦」による災害救助活動を大々的に実施して、多くの日本国民から感謝された。その後、米空軍本部運用・計画部長(A3/5)として活躍されたのち退官された。これからも JAAGA 名誉会員として日本との絆が保たれることが期待される。Lt. Gen. Field の退官式には、日本から佐々江駐米日本大使が参加されたほか

JAAGA から外菌会長が参加した。

(外菌会長記)



(from left) Mr. Hokazono (President of JAAGA), Lt. Gen. Burton M. Field, his wife Lisa, second son David (C-130 Pilot), first son Burt (Aircraft Maintenance Officer) and Col. Ogawa (Air Attaché)

米空軍士官学校創設 60 周年 The 60th Anniversary of the U.S. Air Force Academy

米空軍士官学校では、創立60周年の節目の年を迎えたことを記念して様々な活動が行われている。この活動の中で、初代教育交換幹部であった竹河内元会長から提供された当時の資料を引用し、38年間続いている航空自衛隊の教育交換幹部についての記事が、士官学校軍事学部のFacebookに掲載された。その記事を、ここに紹介する。

Since June 10th, 1976, the Department of Military and Strategic Studies (and its organizational predecessors) has continually hosted exchange officers from the Japan Air Self-Defense Force. There have been a total of 17 Japanese officers assigned to the Air Force Academy, starting with Major Shoji Takeguchi 38 years ago. Now-retired General Takeguchi provided us this article from 1976 to help us celebrate nearly four decades of this America-Japan partnership, and the education General Takeguchi and his successors have provided cadets. Major Kazuto Ueda now proudly represents Japan as our current JASDF exchange officer, infusing his instruction of our Air, Space, and Cyberspace course with unique insights into military thought and culture, and helping cadets gain a better understanding of living and operating overseas.

米空軍士官学校軍事学部(前身組織を含む。)は、1976年6月10日(昭和51年)以降継続して航空自衛隊の教育交換幹部を受け入れています。38年前、初代教育交換幹部の3等空佐(当時)竹河内捷次から始まり、現在まで合計17名の交換幹部が米空軍士官学校で勤務されました。この度、竹河内元空将から、1976年当時の新聞記事をご提供頂きました。この記事から、約40年に渡り、両国のパートナーシップが継続し、代々の交換幹部が本校で教育をされてきたことを改めて感じることができます。現在、17代目の交換幹部である3等空佐上田和人は、航空、宇宙及びサイバースペースを扱う教育科目を担当し、米軍の教官にはない独特の考え方や文化的視点を取り入れて士官候補生の教育にあたっています。このことは、将来の海外での任務遂行や海外への赴任等について、士官候補生の理解促進に役立っています。



Exchange instructor attends AIS course

An attendee at the Academic Instructor School (AIS) here is an Air Force Academy instructor. However, he is not a member of the Air Force; he is with the Japanese Air Self-Defense Force (JASDF).

Maj. Shoji Takeguchi is at the Academy as an exchange officer teaching courses in military study and Japanese.

He went there this summer from the Air Staff Office in Tokyo where he worked in the Operations Section of the Defense Division.

Major Takeguchi said of the school here, "It is very hard and demanding, but I enjoy it and think it will be very good for me."

He says this is his first formal teaching education. At the Academy, he has done some teaching while familiarizing himself there.

The major entered the military in 1965 and attended Japan's National Defense Academy. He was commissioned in 1966 and received his wings in 1968. Flying the F-86F until 1971, he came to the U.S. for F-4 training and was later assigned to an F-4 squadron in Japan. In 1974, he entered Japan's Air Command and Staff College, graduated in 1975 and moved to the Air Staff.


While at AIS, Major Takeguchi spends most of his off-duty time studying, although he has had time for a game of golf.

He added, "I have a friend from JASDF at the Air Command and Staff College here and visit him occasionally."

This is his third trip to the U.S. (His first was to the Academy prior to commissioning.)

"I find the people in the United States very hospitable and friendly," he remarked.

Upon AIS graduation, he will return to the Academy and teach until mid-1978.



Major Takeguchi

The article reported in the facebook of Department of Military and Strategic Studies, USAFA, based on the article provided by Mr. Takeguchi, the fifth President of JAAGA, Ex-C.O.S, JASDF and the first Japanese exchange officer to the USAFA



同盟国アメリカで日本を発信する

～これからは、世論戦だ～

"Walk in U.S., Talk on Japan"

～ A volunteer meets U.S. people at local grassroots level ～



■「国費でアメリカへ行かないか」

この数年来、東日本大震災時のニュースを除き、米国マスコミのニュースの焦点から日本が外れている(あるいは外されている)ことが気になっていました。片や、地方議会で慰安婦像設置が議決されたり、某大手紙上には「日本の右傾化」警鐘記事などが掲載されたりもしています。我が国を取り巻く現下の厳しい安全保障環境にあって、今こそ日米の強固な同盟関係が必要とされている、と私が言うまでもなく、多数の論客が主張されているとおります。日米関係の将来に一抹の不安を感じるこの頃でした。そのような時、癒し系表現の「歩こうアメリカ、語ろうニッポン (Walk in U.S., Talk on Japan)」という政府(内閣府大臣官房政府広報室)の事業に応募しないか、とある先輩から話が舞い込んできました。

■遅きに失したが、趣旨はいいぞ

「米国の各都市において、地元の方々に対して、日本の強み・魅力等の発信を通じ、日本の理解促進を図ることを目的として、一般から公募した方々を全米各地に派遣します。在米日本関連団体や学校等での講演、ミニ集会等でのディスカッションを通じた発信、関連施設の訪問等を行っていただきます」(政府広報、趣旨説明)「5名一グループで、4グループを4地域に分け



Presentation as a panelist

て派遣」ふーむ、微力ながら、日本のイメージアップに繋がるなら、と自身の風貌は気にせず、応募することを決心。なお、要員指定されるかどうかもわからないため、家内には事後報告することに。

■応募要項を見て

政府広報室からメールが届き、応募要項が明らかになりました。何、英文エッセイを提出。これが書類選考され、次は英語による面接！昔が懐かしいけれどなあ、この歳になってやるの？の感想。その後、更に派遣前研修、合格者決定、委嘱という過程を経ました。中でも某大手広報企業での研修が一番内容が濃く大変でした。研修に集まった人たちは、老若男女(若干「老」に偏り気味)。半数は元金融関係(悠悠自適の方々)で米国に10年以上の長期勤務されたという経歴の持ち主。「官」とつく職にあった人は見当たらない。場違いなところに来たかと少々不安に。

■派米決定

「第4陣として、バージニア州、ノースカロライナ州へ行っていただくことになりました」の通知。参加誓約書及び勤務先雇用主の参加承諾書並びに健康診断書等各1通を内閣府に提出して、準備完了。チームは、元仏及び露大使を歴任された方を団長に、女性2名を含む5名。某中堅コンビニグループ



At the table-discussion with local medias, NC Japan Center

経営者、狂言師、IT エンジニアがメンバー。これに、国際広報室担当者、某大手広報企業社員2名、某旅行会社社員1名が同行。合計9名の珍道中となりました。細君「あなた、一週間も何してくるの」に送られて、いざ出発。

■何分、前例がないため…

当該地域担当の領事館は観光客や、企業、地域からのビジネス派遣団などの対応には慣れてはいるものの、「日本を発信」するから人を集めると訓電されて、さぞかし苦労されたに違いない。こちらの意図としては、日本について何も知らない、或いは興味が薄いという人たちに對して日本をプレゼンするというつもりで勢い込んでいましたが、その

ような人たちに簡単に集まってもらえると期待するほうがどうかしている。米側も、地方起こしのビジネスの話を期待して集まった人たちが一部あったりして、官邸の意図どおり物事がすんなりと行くとはい限らない。領事館が頼れるのは、地方の日米友好協会の親日家グループ。取っ掛かりとしてはこんなものかと、半ば大カラ振り感、半ば安心…。それでも、ノースカロライナ州の州都ローリーのノースカロライナ大学には、日本の専門家が多数参集されました。日本語がペラペラの人が多く集まっている中、英語での議論が盛り上がりました。懇親



With Mr. and Mrs. Sasae, Ambassador of Japan to the U. S. at their official residence

会でも議論は続き、アベノミクスの展望、日本の現状（少子化問題、女性の社会進出問題等）、集团的自衛権、靖国問題、歴史問題など、なんでもござれ…冷や汗ものでした。

今回は訪問できませんでしたが、「バージニア州のワシントン DC に隣接する郡などでは、慰安婦像設置、『日本海』『東海』教科書併記議決など、大変な状況である」と聞きました。出発前は、そういうところに出陣するのか、と覚悟していましたが、今回の渡米では、反日の論客との激戦の機会もありませんでした。広報事業

であるからには、今後そういうところにも訪問する必要があるでしょう。（内閣府で行われた内閣官房副長官への報告会では、次回以降、この教訓を反映する、とされました。）

■出張を終えて

足掛け8日間の出張でしたが、実質5日間でパネルディスカッション2回、ラウンドテーブル（自由討議）3回、レセプション5回、メディア対応3回という実務をこなしました。メディアを含め、皆さん紳士的、友好的で、事前に用意した資料（対応に困るであろうことを予期して作成された想定問答集）に頼る場面はありませんでした。メディア（地方）にしても、一般国民にしても、日本に対する興味という点では、明らかに低下傾向が



With the Mayor of Richmond and the City Council President at the Richmond City Hall

窺えるのは残念ながら事実です。親日グループの日本への関心の高さと雲泥の差があると言わざるを得ません。そして、親日グループは、間違いなくマイナーな存在です。「各大学では日本語講座が姿を消しつつある」との発言(日本近代思想史研究者)もありました。彼は学生に、日本の強さ、米国にとっての重要性について教えている、とのことでした。将来、このような人材が激減してしまうような危機が始まっているということでしょう。外国に対する一般的な(地方の)米国人の関心の対象は、ビジネスチャンスの有無、地元への投資誘致に集中して

いると感じました。ビジネス相手として、日本人とはそもそもどういふ集団か、価値観、習慣、文化、教育など、付き合う相手として信頼をおけるのかという点について、根本的な心証を掴ませる方向に誘導することが重要だと認識しました。今年度後半の派遣では、今回の教訓を生かし、よく選んで呼び込んだ聴衆に対して、選りすぐった人材と、パフォーマンスの洗練度で勝負していくことを期待したいと思います。

■終わりに

まだ始まったばかりの事業です。米国に楔を打ち込んできたか、と問われれば、道は未だ遠し、と答えざる



Lunch talk after the Round Table Discussion, Raleigh, NC

を得ません。

米国において日本の存在感をいかに取り戻すか真剣に取り組むべき時である、と強く感じました。

今年度後期派遣の募集は終了しましたが、来年度も継続して実施するということです。退官後の生活にアクセントをつけたいとお考えの向きは、本事業に応募することも一興かと考えますがいかがですか。英語によるパフォーマンス能力の維持向上には打って付けです。

(秦理事記)



In front of the NC Japan Center, NC State University, Raleigh



Courtesy call to R. Adm. Dan Cloyd (Former Commander, Navy Forces Japan, Yokosuka) at the HQ, Fleet Forces Command, Norfolk

米国防衛駐在官勤務を終え

— 人的交流の重要性 —

My three year tour as a Defense Attaché to the US - Friendship between JSDF and the US armed forces -

(前在米国日本大使館 防衛駐在官)
防衛大学校防衛学教育学群長
空将補 引田 淳

平成 26 年 6 月 22 日、同僚をはじめ大勢の人々に見送られ 3 年間勤務していたワシントン DC をあとにし家族共々帰国の途につきました。帰国後、防衛大学校での勤務を命ぜられ既に半年が過ぎようとしています。この間、新たな組織で経験したことのない職務に毎日追われるように過ごしてきました。「今年の今頃は何か？」と、たまに日記を見返すことがあります。それを読むにつけ“Time flies!”を痛感しています。この度は、貴重な紙面の一部をお借りし、防衛駐在官として勤務した 3 年間を通じての所見、中でも日米関係の重要な柱の一つである自衛隊と米軍の関係について人的ネットワークの観点から幾つか述べさせていただきます。

防衛駐在官としての勤務は様々な方々との接触の連続ですが、米軍関係者と接する機会が群を抜いて多いのは当然のことです。陸海空軍及び海兵隊の方々と仕事をさせていただきましたが、非常に心強いサポーターとなってくれたのは、日本そして日本人を知っている方々です。ワシントン DC には米国防省(ペンタゴン)をはじめ、近郊部隊で勤務する軍人の中に日本での勤務経験を有する方々がかなり沢山います。そしてその殆どの方々は親日米軍人となり日本の良き理解者として我々と接してくれました。日本が安全で住み易い



Gen. Martin E. Dempsey, Chairman of the Joint Chiefs of Staff and his wife Deanie, together with Maj. Gen. Hikita, Defense Attaché and his wife Etsuko

ということ、美しい国土と魅力的な伝統・文化を維持していること、そして日本人が総じて(特に外国人に対して?)親切であるということなどが彼らを日本のファンにさせるのでしょうか。いや、それだけではありません。これまで陸海空自衛隊員や OB の方々が米軍人やその家族に対して、様々な交流プログラムやイベントを企画し心からの繋がりを築き続けてきたことこそ、彼らの心に良き友人とともに素晴らしい日本というイメージをしっかりと根付かせている大きな理由であるということ、3 年間の勤務で再認識しました。そしてその思いが日本への信頼にも繋がっているということも間違いありません。

日本勤務経験者と話すと、日本での観光や生活での思い出以上に、個々の自衛隊員との思い出を滔々と語ってくれます。中には既に連絡が途絶えていながらも、お付き合いした自衛官や奥さんの名前をいまだに記憶している方もおり、私も何度か最新のコンタクトポイントを調べて提供したことがありました。そして再び連絡がとれる喜びから皆さん、お礼のメールや礼状を送ってくれたものです。このような交流の本当の重要性と効果について目の当たりにした 3 年間でした。

ペンタゴンには影響力あるポストに就いている現役将官の方々も沢山おり、我々防衛駐在官の仕事の正面又は側面からサポートしてくれました。これまでの防衛駐在官もそのようなコンタクトポイントを中心に勤務し



With (left) Gen. Mark A. Welsh III, Chief of Staff of the Air Force, and (right) Mrs. Deborah Lee James, Secretary of the Air Force

てきたことでしょうか、安倍政権の国際広報戦略に基づく対外発信を積極的に推進する関係で、彼らとの接触もかなり頻繁になったのではないかと思います。特に、日本の立場や自衛隊の動きなどについて逐次説明したり資料を提供する等、正確な情報をいち早く彼らを介して米軍側に伝える努力をしてきました。加えて、親日、知日退役将官の方々との接触も頻繁に実施してきました。退官後も強い政治力を有する方々も多く、日本政府としても、また大使館としても彼らとのお付き合いを重視しています。しかし、このようなお付き合いを容易にしているのも、自衛隊の交流努力そしてOBの方々の継続的な交流活動があるからこそと思います。特につばさ会・JAAGAの活動は日本国内に留まらず、定期的に訪米をして彼らとの交流、そして人的ネットワークの維持をされています。このような海外活動は陸海OB団体にはないもので注目に値するものです。もともとは友好を目的としたものと伺っていますが、今後はサブスタンスにも少しずつ踏み込んでいくことを米軍側も



Around the then Gen. Kataoka, C.O.S., JASDF (retired) with Lt. Gen. Burton M. Field, Lt. Gen. Salvatore A. Angelella, and the then Lt. Gen. Larry D. James (A2)



With Gen.(Ret.) Ralph E. Eberhart and his wife Karen



Around Gen.(Ret.) Paul V. Hester with Maj. Gen. Brett T. Williams, Director of Operations, J-3, United States Cyber Command, former Kadena Commander



With Lt. Gen. Terrence J. O'Shaughnessy and Brig. Gen. David R. Stilwell

大いに期待しています。米空軍のOB団体である米空軍協会(Air Force Association)と比べると規模も経済力も政治力も全く異なることは承知していますが、皆様の自助努力に現役として誠に勝手ながら大いに期待しているところです。

私も防衛駐在官勤務中、沢山の退役将軍の方々に助けていただきました。マイヤーズ大将(Gen.(Ret.) Richard B. Myers)、エバハート大将(Gen.(Ret.) Ralph E. Eberhart)、ヘスター大将(Gen.(Ret.) Paul V. Hester)、ライト中将(Lt. Gen.(Ret.) Bruce A. Wright)等、現在もDCで活躍されている方々には様々な案件でお世話になりました。そしてライス大将(Gen.(Ret.) Edward A. Rice Jr.)、ジェームズ中将(Lt. Gen.(Ret.) Larry D. James)等には出張者の件で相談したところ、快くトップダウン対応をしていただき、滞っていた調整が一気に進む結果となりました。現役ではフィールド中将(Lt. Gen. Burton M. Field)(この記事が載るときには間もなく退官される

ことでしょう)、オットー中将(Lt. Gen. Robert P. Otto)、ホルムズ中将(Lt. Gen. James M. Holmes)等には空軍参謀本部案件で、そして統合参謀本部は当時のアンジェレラ中将(Lt. Gen. Salvatore A. Angelella)、ニューウェル少将(Maj. Gen. John F. Newell III)、オシャネシー中将(Lt. Gen. Terrence J. O'Shaughnessy)、そして現在はスティルウェル准将(Brig. Gen. David R. Stilwell)等とアジア軍政に関し頻繁なコミュニケーションをとってきました。陸軍、海軍、海兵隊にも日本勤務経験者で親日・知日軍人が沢山おり、案件に応じてそれぞれの方々とお話する機会がありましたが、どんな時でも快く懇談に応じてくれ日本の防衛駐在官を暖かく迎えてくれました。

以上のように防衛駐在官勤務間、自衛隊と米軍の絆を痛感した次第ですが、これらを築いてこられた大先輩の方々及び皆様の活動に敬意を表するとともに今後の活動の充実を更に期待しています。そして自衛隊と米軍の強い絆が良好な日米関係をリードしていくことを切に願っています。私もDCで築いた人的ネットワークを大切に、この分野においても微力ながら組織に寄与したいと考えています。いずれにしても現役、OB双方による連続性ある交流活動がネットワークを益々強固にし、発展させるものと確信しています。

最後になりますが、3年間、外から日本を見てきましたが日本の素晴らしさを再認識したことは勿論のこと、自衛隊の練度の高さ、士気の高さ、隊員一人一人の人間力の高さ、そして何より軍組織としての高い健全性を痛いほど感じた次第です。このような貴重な機会を与えてくれた航空自衛隊に感謝するとともに、この経験を多くの後輩達に伝え、今後の勤務の資としていきたいと考えています。勤務間、多くの方々のご支援を得て参りましたが、JAAGAをはじめとし、多くのOBの方々ともDCで直接お会いし、お世話になりました。この場をお借りし改めてお礼申し上げます。JAAGA



With Attachés from their respective countries

及び会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し締めくらせていただきます。



With Eric Ken Shinseki, the then United States Secretary of Veterans Affairs (retired)



With Richard Lee Armitage

新入会員紹介

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
木村 和彦 氏	東京都練馬区	廣中 雅之 氏	東京都港区
清藤 勝則 氏	東京都府中市	光富 達 氏	福岡県福岡市

2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
森岡 隆志 氏	神奈川県横浜市	山本 美香子 氏	埼玉県川越市
小川 正幸 氏	埼玉県狭山市	松本 二三男 氏	埼玉県狭山市
鈴木 一洋 氏	神奈川県横浜市		

3 法人賛助会員

法人名	住所	代表者名
住友商事株式会社 様	東京都中央区	石田 英二 氏

会員募集

今期は、正会員 4 名、個人賛助会員 5 名、法人賛助会員 1 社、合計 9 名 1 社のご入会があり、H26. 11.20 現在の会員数は、正会員 244 名、個人賛助会員 76 名、法人賛助会員 46 社と、少しずつ増加しております。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を宜しくお願い致します。なお、本会への入会等につきましては、次のとおりです。また、推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させていただきます。

【入会資格】

正会員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方は、正会員 3 名の推薦が必要

【連絡先】

○郵便：〒162-0842 新宿区市谷砂土原町 1-2-34 KSKビル 3F
日米エアフォース友好協会 会員担当理事 行

○メール、電話：木村 孝: (e-mail) t-kimura@fq.jp.nec.com
(Tel.) 03-3456-7798

※ お詫びと訂正について

前号「JAAGA だより No.46」の新入会員紹介・法人賛助会員欄を次のとおり訂正致します。

株式会社 武蔵富装 様の代表者名を……………「土屋 純夫 氏」に

株式会社 KSA インターナショナル 様の代表者名を……「小池 一禎 氏」に

誤記がありましたことを深くお詫び申し上げます。

編集後記

- ◇ 47 号は、編集員の手作りです。
- ◇ 特集として「前米国防衛駐在官の寄稿」「秦理事の政府訪米団参加体験記」「米空軍士官学校 Facebook に初代教育交換幹部であった竹河内元会長の提供資料が掲載されたことの紹介」記事を掲載しました。
- ◇ 指揮官の氏名、階級等は、記事当時のものです。
- ◇ 『JAAGA だより』は JAAGA ホームページ (<http://www.jaaga.jp/>) からご覧頂けます。
- ◇ JAAGA では、年 2 回の SPORTEX 及び総会において「募金箱」(Collection Box) を設け、みなさんからの募金を募っています。集まった募金は、次年度の三沢、関東及び嘉手納スペシャル・オリンピックスに寄付されます。
- ◇ だより編集員一同、今後も JAAGA の活動を地道にフォローしていきたいと思っておりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。(編集子)

